

子どもの思いを生かし、未来につなげる地域連携活動

—地域の夏祭りやコミュニティ祭りへ参加する活動を通して—

津島市立神守中学校

<連携校：神守小学校・蛭間小学校・高台寺小学校>

1 実践のねらい

子どもたちは、生まれ、育った津島市神守地域に愛着をもっている。特に中学生は、周りの人々や地域のために役に立ちたいという気持ちを持ち、ボランティア活動に興味をもっていることが、生徒や保護者を対象として行った学校評価等の調査から分かる。

しかし、実際にいつ、どこで、どのように活動したら良いかが分からず、意欲を実践につなげることができないという姿が見受けられる。また、単発的な活動に満足してしまい、それを持続させようとする意欲が十分でない傾向が見られる。

そこで今回、神守地域の小・中学校が連携し、地域のためにどのような活動をするかを話し合う「かも神サミット」を設定する。各小・中学校の児童生徒が地域に貢献する方策についての意見を交換することによって、児童生徒に地域の一員としての自覚を高めさせたい。

また、小・中学校の異年齢の子どもたちが話し合うことにより、年齢の上の者が下の者に地域へ貢献するための方策や思いを伝え、今後につながる継続的な活動が期待できると考える。

2 実践の内容

(1) 第1回「かも神サミット」の開催

神守中学校区に住む同年齢や異年齢の子どもたちが一緒になって地域を元気にする取組について話し合うために、各小学校より児童会役員3名ずつを神守中学校へ招き、中学校の生徒会役員5名と共に「第1回かも神サミット」を開催した。その中で、夏休みの夏祭りや秋のコミュニティ祭りなどは、小学生も地域の方と楽しく参加しているといった意見が出された。

そこで、このような地域の方と一緒に参加している行事を、自分たちの手でもっと盛り上げていくような方法を考えていくことにした。小学生、中学生の双方から具体的な意見が多く出され、各学校で祭りに向けて次の三つの活動を行っていくことを確認した。

- ・ みんなで花を植えたり清掃活動を行ったりして、地域の方が祭りに気持ち良く参加をしていただけるようにする。
- ・ 祭りにたくさん参加するように呼び掛ける。
- ・ 中学生はボランティアとして祭りの手伝いをする。

(2) 祭りに向けての取組

それぞれの小学校の子どもたちは、祭りにたくさんの参加を呼び掛けるようにポスターの制作をした。そして、校内の各所に掲示したり、全体の場で呼び掛けたりするなどの活動を行った。また、地域の方にも多く参加していただけるように、地域の方がたくさん集まる施設にも掲示をさせていただいた。



【「かも神サミット」で意見交換する児童生徒】



【参加を呼び掛けるポスターの掲示】

さらに、地域の方が祭りに気持ち良く参加をしていただけるように、プランターに花を植え、会場を飾ったり、地域の方と一緒に会場の掃除をしたりした。

祭り当日は、多くの子もたちが参加した。中学生は各小学校区のコミュニティ推進協議会と連携し、ボランティア活動に取り組んだ。

祭り会場の設営を手伝ったり、かき氷や綿菓子、金魚すくいなど、地域方や企業による出店の運営を手伝ったりした。

来場する多くのお客さんに対して笑顔で対応する中学生の様子は、普段、学校で見せる姿と違って、大変頼もしい姿であった。



【祭りでかき氷販売を手伝う中学生】

(3) 第2回「かも神サミット」の開催

第1回「かも神サミット」で確認した内容を基に各学校で活動したことを紹介し合う場として、第2回「かも神サミット」を開催した。

小学生は、ポスターを制作して掲示したり、プランターに花を植えて会場に飾ったりした活動の様子を、写真を提示しながら説明した。中学生から「苦労したことは何か」「地域の人たちの反応はどうだったか」などの質問が出され、様々な苦労をしながらも地域の方に喜んでいただけた経験をうれしそうに話す姿が見られた。

また、中学生は、祭りの準備や運営にボランティアとして携わった経験を発表した。小学生からの「ボランティアは誰でもできるのか」「他にどんな仕事があるのか」などの質問にも詳しく答えていた。

これらの活動を来年度以降も引き継ぎ、これからも地域に貢献する活動を模索していくことを全員で確認し合った。



【活動の様子を発表する小学生】

3 実践の成果や課題

今回の取組による成果は以下のとおりである。

- 小学生と中学生が、学年の枠を超えて、夏祭りや秋のコミュニティ祭りなどの地域の活動に参加することで、地域を元気にするといった共通の目標をもち、同じ地域に住む仲間としての連帯感を強くすることができた。
- 活動を通して、コミュニティ推進協議会や地域の各施設の方に大変お世話になった。そうした中で、地域の活動が多くの方の協力によって成り立っていることを子どもたち自身が実感することができた。また、自分たちの活動によって地域の方が喜び、その姿を目の当たりにしたことで、子どもたちが自らの社会参画意識を高めることができた。

以上のような成果があげられる一方で、小学生と中学生と一緒に活動する時間を設けることが容易ではなく、お互いの考えを知る機会が限られたという課題が挙げられる。

今後も児童生徒が共に活動し、考えを交流し合う機会をより多く保障するなど、小学校と中学校、そして地域との連携をより深めるような方法を模索していきたい。